

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>理数教育や英語教育に力を入れるとともに発展的・実戦的なプログラムをとおして、新たな価値を創り出す力や高度なコミュニケーション能力を身に付け、社会をけん引する人材の育成を目指す。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 主体性を身につけた、自ら学び自ら考え自ら行動する人を育成する。 2 社会の中で自らの役割を見つけ、一隅を照らすことのできる人を育成する。 3 困難に立ち向かう逞しさ(克己)、他者を思いやる優しさ(親和)、探究する積極性(進取)を持った人を育成する。</p>
---------------------------	---	----------------------	---

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕

年 度 当 初		評 価 結 果 (最終)		
評価項目	評価の具体項目	経過・達成状況 %は生徒・保護者アンケート結果	改善方策	
1 社会貢献に繋がる人間力の育成 【主体的に考え、行動させる教育】	<p>①学習・部活動・学校行事の3兎を全力で追いかけ、主体的に行動する人を育成する。</p>	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習を毎日計画的に行っている」生徒は全体で76.3%。このうち1、2年生は67.9%となっている。 ○1、2年生の41.4%が「学習習慣・学習方法が未確立」と回答。 ○部活動加入率は90.6%。加入生徒の71.6%が、保護者の80%が「部活動と勉強との両立ができている」と回答。 ○新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、ほとんどの学校行事を通常どおり実施できつつあり、生徒同士が目標を共有し、その達成のために協力して取り組んでいる。92.1%の生徒が「対人関係能力の育成が図れている」と回答。 ○夏季休業中を中心に、多くの生徒が校外ボランティア活動に参加している。 <p>目標(年度末の目指す姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習と部活動との両立ができている」と感じる部活動加入生徒の比率が75%以上となっている。 ○「対人関係能力の育成が図られている」と感じる生徒の比率が95%以上となっている。(参考) R3：78%、R4：92% ○各種ボランティア活動や交流事業、学校行事等に主体的に参加する生徒が増加している。 ○キャリア・パスポート等を有効に活用し、自分のキャリアを主体的に形成していこうとする生徒が増加している。 <p>目標達成のための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が計画的かつ継続的に自宅学習に取り組めるよう、教科間で事前に調整を行う等、授業課題の量や内容を精査する。 ○生徒が学習と部活動の両立を表現できるよう、部顧問会における部活動約束事項(原則)を守る。 ○学校行事はもとより日常的な学校生活のどのシーンにおいても、全教職員が、生徒の主体的な取組をプロセスを重視しながら支援する。 ○生徒が社会と実践的につながるプログラム等に係わる情報を随時提供し、ボランティアや地域・国際交流事業等への生徒の積極的な参加を促す。 <p>経過・達成状況 %は生徒・保護者アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○76.1%の生徒は課題の量は適切であると回答。1.2年生の33.7%は自分なりの学習習慣・学習方法が確立していないと回答。 ○東高祭や球技大会においては、クラスやグループで目標を共有し、その達成の為に互いが協力して取り組むことができた。92.9%の生徒が学校行事などによって対人関係能力が向上していると感じていると回答。 ○92.5%の生徒が部活動が楽しみと回答。73.2%の生徒、68%の保護者、57%の教職員が学習と部活動を両立させていると回答。過年度比較をみると、生徒の回答は昨年度並みであるが、教職員は68%から減少。年3回実施している自宅学習調査等の結果からも、生徒の学習への取り組みを課題だと考える教職員が多い。 ○夏季休業中を中心に校外の各種ボランティア活動に約40名の生徒が参加。 <p>評価</p> <p>改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の1学期は、部活動にも懸命に取り組みながら、学習習慣作りを指導・助言していく。 ○学校行事のみならず、日常のクラス役員や教科係、清掃活動等においても、主体的に取り組むことができるよう支援する。 ○課題の量や内容を工夫するとともに、各教科間で調整を行い、生徒の家庭学習が計画的・継続的に行えるように支援する。また徐々に生徒の主体的な学習へとつながるよう計画する。 B ○学習と部活動との両立がさらに達成できるよう、部活動約束事項を遵守しながら、部活動の充実を図る。また、各月の部活動計画を綿密に練り、担任・教科担当・部活動顧問が連携し、生徒の家庭学習時間を担保し、学習にも意欲的に取り組むよう指導する。 ○令和7年度の年間行事予定作成にあたり、学習と学校行事や部活動を総合的に検討し、一層の充実改善を図る。 ○三兎を追う本校の教育目標の達成を目指すため、令和8年度教育課程の編成や、週時程等の検討を行う。 		
		<p>○スマートフォン等の平日利用時間が1時間以上の生徒の割合は61.7%。保護者の40%が適切に使用できていないと感じている。</p> <p>○自転車等の交通マナー向上を心がけている生徒は98.3%。R5年度の自転車事故は6件(R3：6件、R4：4件)、マナーに関する苦情8件(R3：6件、R4：13件)となっている。</p> <p>○自転車通学生のヘルメット着用率は微増中。</p> <p>○「生徒の身だしなみ等について、教職員の55%が一致した指導ができていない」と感じている。</p> <p>○生徒一人あたりの図書貸出冊数はR4年度と同程度となっている。</p> <p>②品位ある振舞を大切にさせるとともに、他者を思いやる心を育成し、社会の中で「一隅を照らす」ことのできる人を育成する。</p>	<p>○スマートフォンの使用に関する調査を行い実態を把握するとともに、講演会や日常の指導、生徒保健委員との連携など行って引き続き啓発していく。</p> <p>○保健部・指導部と連携し、スマートフォン利用についてのLHRを2年生対象に実施する。</p> <p>○自転車運転のルールやマナーについて、担任や部顧問と連携を取りながら指導を行う。また、登下校時の立ち番指導や、生徒会執行部と連携した啓発活動を行い、継続的に注意喚起する。</p> <p>○一人あたりの貸出冊数増加に向けて、授業での利活用も含め、貸出に結び付く方策を検討する。</p> <p>○探究型学習に適した資料を充実させ、各種データベースでの情報収集等、ソフト面も含めた整備を進める。</p> <p>○今後も図書委員の活動の場を積極的に設ける。</p>	
		<p>○97.3%の生徒が、本校はいじめを許さない学校である・安心して学べる学校である、と回答。</p> <p>○「規律ある自由」及び人間関係づくりを引き続き重視。不登校傾向等の生徒について、保健部が中心となって積極的に学年と情報共有したり協働的に支援したりできつつある。</p> <p>○生徒の状況等に応じて、教育相談員、SSW及び関係外部専門機関とも密接に連携・情報共有し、生徒一人ひとりに適した個別対応にあたっている。</p>	<p>○SNS利用に係るマナーやモラルを守る、周囲に配慮した言動ができる等、生徒が「規律ある自由」の実現に向かっていく。</p> <p>○「本校はいじめを許さない学校である・安心して学べる学校である」と感じている生徒が98%以上となっている。</p> <p>○緊密な「報告・連絡・相談」をとおして、全教職員が個々の発達段階やニーズに応じて組織的に生徒を支援している。</p> <p>○生徒の安心安全な学校生活を実現するよう、学年やクラスの枠を超えた「報告・連絡・相談」体制を維持する。</p> <p>○「規律ある自由」を生徒に問い続け、多様な他者との関わり合いをとおして生徒がよりよい人間関係づくりについて実践的に学べるよう支援する。</p> <p>○生徒(又は保護者)がその時に本当に必要とする指導・支援ができるよう、外部関係機関と定期的に情報交換を行う。</p>	<p>○約95%の生徒が、いじめや差別を許さない安心して学べる学校であると回答。</p> <p>○生徒は約96%、保護者は91%が校則やルールを守っていると回答しているが、教員の45%が規範意識や自律した生活態度が育成されていないと回答。</p> <p>○教職員の83%が「報告・連絡・相談」をとおして組織的に生徒を支援していると回答。</p> <p>○生活習慣に関するアンケート(6月、11月)・生徒保健委員会・保健だより・啓発動画などによって情報提供や啓発を行っている。</p>

<p>2 学習指導の充実 【勝負させる授業】</p>	<p>③日々の授業を中心に据え、基礎学力から応用力、さらには正解のない課題にまで主体的・協働的・探究的に取り組む人を育成する。</p>	<p>○7教科で研究授業・公開授業を実施。また、タブレット型端末やデジタル教科書を活用した授業も日常的に実施。</p> <p>○生徒の志望進路に対応した教育課程の編成を行った。</p> <p>○全国模試の結果は目標数値を全学年において達成できておらず、開きが解消できていない。</p> <p>○「総合的な探究の時間」をより系統立て、工夫して実施できた。また理数科課題研究も計画どおり実施できた。</p>	<p>○どの教員もが年3回以上は校内公開授業・研究授業等を参観し、教科指導力向上に取り組んでいる。</p> <p>○ディベート活動等も含め、生徒の主体的・対話的で深い学びに資する授業が増えている。 【英語教育】</p> <p>○授業改善並びに業務カイゼンに係る教職員のDXが推進されている。</p> <p>○年度末の全国模試結果において、各学年とも、各教科で設定した目標値を超えている。</p> <p>○「総合的な探究の時間」並びに「理数探究」に係る生徒の学びの質が改善され、生徒の仮説設定力や課題解決力が向上しつつある。 【理数教育】</p>	<p>○自らの授業改善に資するよう、校内公開授業・研究授業等を年に3回以上参観する。</p> <p>○観点別評価を効果的に運用し、生徒の主体的・対話的で深い学びに資する授業づくりを推進する。</p> <p>○デジタル教育環境整備をさらに進めるとともに、本校の目指すDX推進に適した教育課程の編成・活用方法について研究する。</p> <p>○「自ら問を立てて取り組む」等、「総合的な探究の時間」並びに「理数探究」の効果的な指導に係わる教員の指導力向上を図る。</p> <p>○生徒の思考力・判断力・表現力の質的な向上を目指し、探究活動に係る成果を生徒が外部学会等で積極的に発表できるよう支援する。</p>	<p>○生徒の教科学力及び総合的な学力の育成・伸長について、全国模試の結果等を踏まえながら授業改善及び学習指導に取り組んでいる。</p> <p>○課題の量について適切だとする生徒が全体で76.1%であり、中間から若干ではあるが数字が向上した。</p> <p>○全国模試結果判明後に「模試等結果分析会」を学年別に開催し、今後の方策を教員で議論した。</p> <p>○「鳥取学」や進路講演会などのキャリア教育にかかる各種活動について85%の教員が充実していると回答。</p> <p>○ICTを活用した授業の工夫を行っている83%の教員が回答していること、ICTの活用を意識した授業が展開されている。</p> <p>○全教科で研究授業や公開授業を実施。各種発表会等を含め、多くの教職員が参観し、授業改善に活用。また、教職員の参観によって生徒が集中力やモチベーションを高める一助となった。</p> <p>○観点別評価の一部改編を行い、教科担当者間でその有効的な活用についての議論・協議を踏まえた実践を継続実施。</p> <p>○新学習指導要領実施完成年度にあたり、主旨に沿った学習活動の充実と、DXハイスクール認定等に伴う教育課程再編を実施。</p> <p>○デジタル教育環境の整備と研究を進め、日常的にChromebookを含め、ICTを活用した授業、連絡、アンケート調査等を実施。</p> <p>○理数科の理数探究（課題研究）の成果を学会等で発表し、最優秀賞などその成果を外部からも高く評価された。</p>	<p>○課題は、質と量の精選を行い、取り組みもさることながら、主体性についても検討、検証する。</p> <p>○1、2年生については学習、生活両面の基礎基本の徹底を行う。</p> <p>○「模試等結果分析会」を継続し、伸ばしたい領域を明確にすることや、難関大を目指す生徒の育成の方策の検討についても強化していく。</p> <p>○進路講演会の意義や時期ごとの目的などを再度全職員で確認する。</p> <p>○ICTの活用によって学びの質が深まる授業作りについてさらに実践と研究を重ねる。</p> <p>B ○キャリア教育のみでなく探究活動（理数探究を含む）に関するアンケート調査について検討する。また、探究活動に関する職員研修会の実施も検討する。</p> <p>○業務カイゼンに係る教職員のDX推進の方策について引き続き研究していく。</p>
	<p>④受験は補欠なき団体戦であることを自覚させ、生徒同士がチームとして一丸となって学力向上に取り組む姿勢を育成する。</p>	<p>○校内模試や実力テストの範囲を実施1か月前に提示し、生徒の自律的な学習を促している。</p> <p>○90.7%の生徒が課題をしっかりとやり遂げていると回答している一方で、学習習慣・学習方法が確立できていると回答した生徒は75.1%となっている。</p> <p>○授業における効果的なICT活用及び生徒の個別最適な学びに資するよう、Google Classroomを活用して授業課題を提示・確認したり、任意生徒を対象に「スタディサプリ」（リクルート）を導入して生徒の発達段階や志望に応じた個別学習支援に取り組んでいる。</p> <p>○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒比率は76.3%に留まっている。 （R3：72.3%，R4：65.2%）</p>	<p>○「学習習慣・学習方法が確立できている」と感じる生徒の比率が80%を超えている。</p> <p>○それぞれの学年生徒がより高い進路目標を掲げ、その実現に向けて計画的に学習に取り組んでいる。 →「家庭学習を毎日計画的に行っている」という生徒の比率 80%以上</p>	<p>○大学入試問題研究に通年で取り組み、求められる力を明確にした上で、授業並びに校内模試・校内実力テスト問題作成等にフィードバックする。</p> <p>○自らの進路実現に係わる1年間及び3年間の進路実現スケジュールについて、生徒の発達段階に応じて具体的に意識させるとともに、個別面談や進路LHR等をとおして自らの人生づくりについて主体的に考えさせる。</p>	<p>○校内模試および実力テストの具体的な範囲の提示を約1ヶ月前に行い、生徒の計画的取り組みを促した。</p> <p>○89.2%の生徒が各教科から出される課題をしっかりとやり遂げていると回答。また、家庭学習を毎日計画的に行っている生徒は全体で71.9%、1、2年生は62.7%となり、中間評価時点から向上。</p> <p>○進路指導資料や進路便り等で年間を通した進路スケジュールを示しながら、適宜指導を入れ、計画的に学習に取り組ませている。</p> <p>○学習習慣、学習方法の確立ができていると回答した生徒は73.3%。</p> <p>○「理数探究」の成果を学会や各種大会で発表し、進路意識および進路実現の向上につながっている。</p>	<p>○担任・生徒の個別面談において、家庭学習の意義やその具体的な取り組み方について特に低学年時から個別に指導・対応するとともに、ICTを活用した個別学習に取り組む意識の高揚を図る。</p> <p>B ○コース・科目選択調査を通して自分の進路について具体的に考えさせ、進路実現のために必要な学習に自ら取り組むよう各教科で指導する。</p>

<p>進路指導の強化</p> <p>3 【挑戦させる進路指導】</p>	<p>⑤第一志望にこだわらせ、目的と目標をもって、将来、社会の中で自分の役割を果たせる人を育成する。</p>	<p>○個々の現状に対応しながら、第1志望にこだわった進路指導を一貫し、令和6年度大学入試において逆転合格する生徒が多数出ている。</p> <p>○令和6年度入試における国公立大現役合格率は49%と前年度比でやや微減したものの、ブロック大等への合格者数は前年度比で増となっている。</p> <p>○就職志望者への指導・支援も手厚く、公務員志望者については80%の合格率となっている。</p> <p>○生徒の進路実現に向けての姿勢及び理解度については82.2%。令和5年度の目標数値を若干下回ったものの、改善傾向にある。</p> <p>○「次世代教師塾」も奏功し（3回実施）、教育系大学・学部への進学者が増加傾向にある。</p> <p>○高校生議会、高校模擬教育国連、高校生ビジネスグランプリ、サマーボランティア「修立小学校サマースクール」等に多くの生徒が参加する等、課外活動に積極的に挑戦する生徒が増えつつある。</p>	<p>○補講や添削指導等、各学年が戦略的に学力上位者を育成している。</p> <p>○難関大学を志望する生徒並びに受験する生徒が増えている。</p> <p>○「次世代教師塾」「高校模擬教育国連」「英語ディベート大会」等、自主的な課外活動に取り組む生徒の数が前年度並み又は増加している。</p> <p>【英語教育】【理数教育】</p> <p>○生徒の進路実現に向けての姿勢及び理解度が向上している。 → 学校評価アンケート「④進路」項目における肯定的な回答 85%以上</p>	<p>○難関大学進学を目指す志並びに学力の育成に資する授業、課題の精選、試験及び講話等を行うとともに、必要に応じて補講や個別指導を実施する。</p> <p>○生徒対象の進路講演会に加え、教員対象の進路指導研修会を実施し、教員の進路指導スキルの向上を図る。</p> <p>○教育系志望者を対象とした「次世代教師塾」への参加者を増やす。</p> <p>○生徒が実社会や全国レベルの同世代と繋がる教育プログラムや大会等、自主的な課外活動に取り組む意義についてより効果的に周知するとともに、その成果等について全校生徒に報告・発表する機会を設ける。</p>	<p>○全学年で、成績上位者を養成するための補講や添削指導を実施。</p> <p>○進路実現に向けた姿勢について、不十分と感じている生徒が全体で20.8%いるが、1、2年生については約30%。</p> <p>○「次世代教師塾」を3回実施。第1回（6月22日）38人、第2回（9月21日）23人、第3回（11月23日）17人の参加があった。</p> <p>○「サマースクールボランティア」（修立小学校・稲葉山小学校・東中学校）に6日間で延べ47名の生徒が参加した。</p> <p>○年度当初、学校目標として難関大学進学を目指す、並びに学力の育成に資する授業等への共通理解がなされ、教科指導、進路指導をはじめとして各場面で取組が進められている。</p> <p>○高校模擬教育国連、英語ディベート大会に19名の生徒が参加。</p>	<p>○現在の取組を継続しながらも、成績上位層への意識付けを強化していく。</p> <p>○1、2年次からの進路意識の高揚をはかるため、現取組の継続、効果的進路講演会の活用、分掌と学年の連携の強化を実践。個人面談については、約90%の生徒が効果を感じていることから、継続とさらなる充実を図る。</p> <p>○「次世代教師塾」「サマースクールボランティア」は、生徒の進路志望等を踏まえながら参加を呼び掛けるなど、きめ細い支援・情報提供を行う。</p> <p>○進路保障につながるよう、1・2年次の基礎基本と学習習慣の確立を図る。</p>
<p>学校運営の点検と教育環境の整備</p> <p>4 【仕事と生活の調和】</p>	<p>⑥効果的な地域連携とPTA活動を推進する。</p>	<p>○水泳部や女子サッカー部、書道部、生徒会執行部等に加え任意生徒が、それぞれの得意を活かしたり社会的責任を果たしたりできるよう、地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○PTA各専門部が活発に活動している。</p>	<p>○異校種間交流（小・高や中・高）や地域交流に参加・参画する生徒が増加している。</p> <p>○学校行事やPTA主催行事に参加する保護者が増加している。</p>	<p>○学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用し、効果的な地域連携に係わる具体的な内容について検討する。</p> <p>○保護者の意見・要望も踏まえてPTA行事を企画・運営する。</p>	<p>○文化部を中心に事業所等が主催のイベントへの出演依頼があり、日頃の部活動の成果を発表し、地域の方との交流が進んだ。</p> <p>○PTA各専門部が計画通り行事を行った。</p>	<p>○生徒、教員負担が過度にならないようバランスを考慮しながら地域イベントへの参加を計画・実施していく。</p> <p>○PTA専門部と連携して状況に対応しながら、保護者の意見・要望を踏まえてPTA活動を企画する。</p>
<p>⑦各種広報紙の定期発行や学校ホームページの活用をさらに発展させて情報発信を充実する。</p>	<p>○生徒の生き生きとした表情を中心に「東高通信」を編集し、本校保護者のもとより地域中学生保護者にも本校の取組や生徒の様子について発信できている。</p> <p>○学校ホームページの更新頻度を上げ、本校教育の魅力や特色を可能な限りリアルタイムで発信している。</p> <p>○マチコミ等のメール配信システムを活用し、生徒・保護者への丁寧に連絡周知を心がけるとともに、より円滑な学校運営を支援している。</p>	<p>○各種広報紙や学校HP等をとおして、地域に本校の取組や特色ある教育活動等が広く周知されている。</p>	<p>○学校ホームページに掲載する情報をこまめに更新するとともに、「読みたいく（閲覧したく）なる」コンテンツ構成を工夫する。</p> <p>○メール配信システム等を活用して、保護者に必要な情報をリアルタイムで提供する。</p>	<p>○メール配信システム等を活用し、生徒・保護者への連絡を適宜行うことができた。昨年度1月に導入した「欠席・遅刻連絡回答フォーム」は保護者にとって利便性が高く、軌道に乗っている。</p> <p>○学校HPを活用し、必要な情報を積極的に発信するよう努めており、多くの方々に閲覧していただいている。</p> <p>○PTA文化広報部の「鳥取東高通信」を通じて生徒の様子や学校の状況について保護者・中学生・同窓会の方々に情報発信することができた。</p>	<p>○引き続きメール配信システム等を活用し、保護者に必要な情報を提供していく。</p> <p>○「鳥取東高通信」については、さらに充実した編集を工夫する。</p>	
<p>⑧学校業務改善の取組を進め、職員のワークライフバランスを促進する。</p>	<p>○部活動指導について、管理職が月別の活動計画書及び実績報告書により各部の活動状況を確認するとともに、必要に応じて計画の修正を当該顧問に依頼することをおして健全なワークライフバランス実現を図っている。</p> <p>○時間外業務時間の多い教職員には、管理職が個別に通知を发出して注意を促している。</p> <p>○令和5年度実績において、時間外業務時間が月80時間を超える職員は0人。月45時間を超える職員はのべ45人となっている。</p> <p>○令和5年度実績において、教員の時間外業務の平均時間は20.6時間となっている。（参考）R1：37.5時間</p> <p>○令和5年度実績において、年間時間外業務時間が360時間を超えた教職員は9名となっている。（参考）R3：16名 R4：15名</p>	<p>○全部活動顧問が部活動に係る本校の方針を順守し、適切に指導・活動している。</p> <p>○長期休業中に対外業務停止日を設ける等、教職員の業務カイゼンが進みつつある。</p> <p>○時間外業務時間が年間360時間を超える教職員が令和5年度（9人）の半数程度（5人）以下になっている。</p>	<p>○管理職が定期的に部活動の活動状況を確認するとともに、各部顧問に部活動に係る方針遵守について働きかける。</p> <p>○夏季休業期間中に対外業務停止日を設けるとともに、体験的活動等休業日を効果的に設定する。</p> <p>○時間外業務が過多になっている教職員には、管理職が各月はじめに前月の時間外業務の状況を通知する。</p>	<p>○月別の活動計画書、実績報告書により活動状況を確認し、必要に応じて計画の修正を行っている。</p> <p>○夏季休業期間中に3日間対外業務停止日を設けた。</p> <p>○時間外業務時間の多い教職員には、個別に注意を促しており、1月末時点で時間外業務時間が月80時間を超える職員1人。月45時間を超える職員が延べ50人（実20人）。1月末時点での教員の時間外業務の平均時間は22.3時間（令和5年度21.1時間）、年間360時間を超える教職員が9人。</p>	<p>○現在の取組を継続する。</p>	